



TEAM
EXPO
2025

いどもう。みらいに。
“共創チャレンジ”



みんなで話そう、阪南の未来！
～まちづくりワークショップまとめ～

阪南市未来創生部 政策共創室
デロイトトーマツコンサルティング

第3回ワークショップの振り返りと総括

3回目は「尾崎駅前のにぎわい創出」という具体的なテーマを取り上げ、フィールドワークを織り交ぜながら、ありがたい空間を考えました。また、コミュニティのキャッチフレーズも出しました

ワークショップ3日目の概要

3日目：2023年12月9日（土）13:30～16:15

参加者

- 15名（まちづくり活動者3名・大学生10名、企業関係者2名）
※オブザーバーとして市長、副市長、学識経験者および市職員（政策共創室、都市整備課）

ワークショップのテーマ

- 問1. 尾崎駅前のにぎわいを創り出すためにどのような空間・場をめざしますか
- 問2. 阪南市まちづくりコミュニティの“キャッチフレーズ”を考えてください

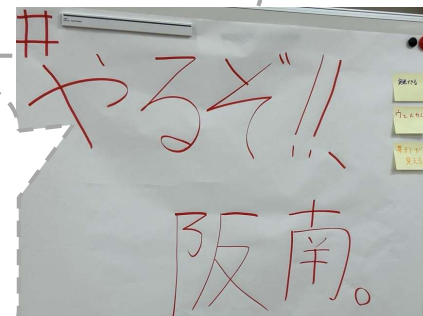


人が憩う、チャレンジできる場 ～“ここに来れば何か出来る・出会える駅”～

- ✓ 自分がやりたいことを“Small Start”できる場
 - 実証実験、手作り市、アートの展示等
- ✓ 多世代が楽しめる、交流できる場所
 - 電車の待ち時間、家族の送迎のすき間時間などに、ホッとできる場所
 - そこに集うことで自然と交流が生まれる場

“#やるぞ、阪南！”（代表例）

- ✓ 意思がある人は誰でもWelcome！
- ✓ 小さくても実現する！
- ✓ やっていること、集まりが見える！



今回のワークショップは、自治体と市民（若年層）が相互理解を深め、官民一体となって未来の阪南市を考え、双方で新たな気づきがありました

共創チャレンジ（阪南市様）の総括

実施前の状況

実施後の成果

自治体

- 公聴会や過去の意見交換・ワークショップを行うも、参加者が高齢者に偏りがちで、行政や暮らしに対する足元の課題が多く挙がる
- まちづくりについて、若年層や現役世代に興味を持ってもらうのは難しいと感じている

- 若年層と中長期的なビジョンを考えたことで、市の皆さんもポジティブになった
- 今回のワークショップで、若年層が活発に意見交換していたことが良い意味で意外だった

住民・ 関係人口 (若年層)

- まちづくりに関わりたいという思いはあるが、それを行政に伝える場がなかった
- 自分以外にまちづくりに関わっている人がいるのか把握できず、活動の幅が広がらない

- ワークショップの結果に対して、市長等行政側の意見も聴けたため、本気度を感じた
- ワークショップで他に活動している人やまちづくりを研究している人と出会い、つながりが生まれた

まちづくりの 取組み

- 行政に届くのは限られた年齢層の住民の声が多く、また、その住民は主体的には関わらない
- 市の中で、個々人がやりたいことを、出来る範囲で取り組んでいる

- まちづくりに主体的に関わりたい、考えたい市民を行政がサポートすることで、行政・市民一体となったまちづくりの可能性を示唆
- 同じ思いを持つ市民どうしが意見交換することで、新しいアイデアにつながった

阪南市は3回のワークショップを通じて、ビジョンとまちづくりの方針策定、具体的なアイデア出しまでを行い、市民（+大学、企業）も交えた活動の機運が高まっています

ワークショップの全体像

- ワークショップの目的・ねらい**
- 阪南市に暮らす、働く、学ぶ、若い世代がまちづくりに興味を持ち、参加を促すために、ビジョンを策定する
 - 共創チャレンジの一環として、ビジョンをもとに、具体的なまちづくり活動を起こす

市民参画のまちづくりに向けて

実施概要

Step 1	阪南市のビジョン、 ありたい姿を考える	1 回目	主要テーマ	■ 「住み続けたい、訪れたい阪南市」を考える
			参加者	■ 13名（まちづくり関連団体、大学生等） ※40代以下で阪南市在住または市と関わりのある方
			ビジョン案	■ 「強みが多い阪南市！伸びしろ都市↑」 ■ 「誰でも自由に活動できるまち、阪南市」
Step 2	市民による、 まちづくりの方針を考える	2 回目	主要テーマ	■ みんなで阪南市の未来を創るために 大切にしたいこと、工夫したいことを考える
			参加者	■ 15名 ※属性、所属は1回目と同様、市民の傍聴7名
			方針案	■ 「今ある資源で人と企業を集める～主体性のあるまちづくり～」 →具体的な成果を連続して起こそう！
Step 3	まちづくりを実際に考える	3 回目	主要テーマ	■ 尾崎駅前の歩道拡張に伴う空間・場の活用 ■ 阪南市まちづくりコミュニティのキャッチフレーズ
			参加者	■ 14名 ※属性、所属は1、2回目と同様
			アイデア案	■ <u>尾崎駅周辺を何も無い場所→憩いの場・活動の場へ</u> ※歩道拡張や再生事業なども絡めて

→ 今回の共創チャレンジの取組みを足掛かりに、今後、尾崎駅周辺を含めた阪南市の将来像を検討します

【ご参考】1回/2回ワークショップのまとめ

1回目では、主に阪南市まちづくりのビジョンについてディスカッションを行い、市のポテンシャルの高さや有効な資源について多数の意見が出されました

ワークショップ1 回目の概要

1日目：2023年7月2日（日） 13:30～15:30

参加者

- 参加者13名（市内活動者3名・市外活動者10名）

ワークショップの テーマ

- 問1. 「あなたが住み続けたいくなる、訪れたいくなるまち」とは？
- 問2. 阪南市の強み、活かせる資源は？
- 問3. あなたが「住み続けたいくなる、訪れたいくなる阪南市」とは？
- 問4. それを実現するために必要な仕組み、工夫は？

- ✓ 阪南市は強みが多い「伸びしろ都市↑」。活かされてないだけ。
 - ✓ 地域のことをワガコで考え続けるまちであってほしい。多世代交流を進めたい。
 - ✓ 魅力を発信できるまちになりたい。自然が活かしたカフェや集いの場をつくろう。
 - ✓ 「阪南市といえば○○！」を磨きたい。
- ➔今ある資源を最大限活用して、積極的にプロモーションできる仕組みが必要。



- ✓ 阪南をがみんなで行いたいことができる「自由に活動できるまち」にしたい。
 - ✓ 空き家・空きスペースの利用で交流を生み出したい。
 - ✓ 話題性や発信力があるまちにしたい。音楽イベントも楽しそう。
 - ✓ 人を集めて、きちんと経済を回して継続的に活動したい。
- ➔新しいチャレンジに対する周囲の理解を深め、ルールを柔軟にしてほしい。

2日目は、未来を創るための仕組み・工夫について深くディスカッションを行い、市民に発表する場を設けました

ワークショップ2日目の概要

2日目：2023年7月9日（日）13:30～15:30

参加者	■ 参加者 8 名（市内活動者 7 名・市外活動者 1 名）
傍聴者	■ 7名
ワークショップのテーマ	■ みんなで阪南市の未来を創るために、どのような仕組み、工夫があればよいと思いますか

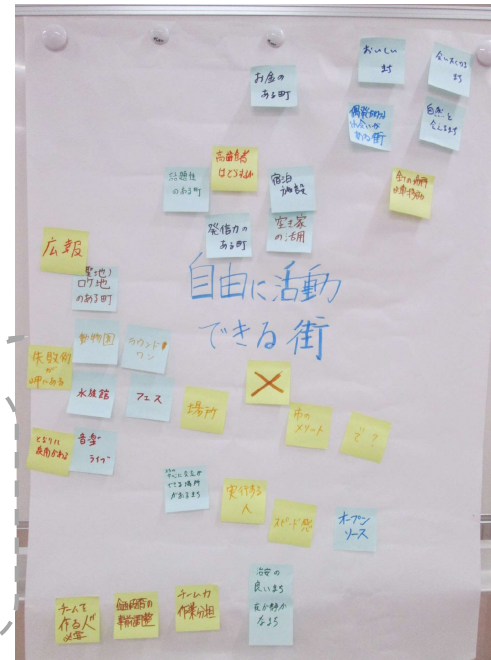


今ある資源で人と企業を集める ～主体性のあるまちづくり～

- ✓ PR（プロモーション）が大事！イベントも考えたい
- ✓ 市民コミュニティをつくって活動したい
- ✓ 教育現場で子どもたちに阪南市の良さを感じてほしい

自由に活動できる仕組みづくり

- ✓ チームづくりが第一歩！共感できるメンバーを増やしたい
- ✓ 行政等との調整が大変。企画をマネジメントできる人材が必要
- ✓ 役割分担して、チームを強くしたい



傍聴された皆さまから心強い応援メッセージをいただきました。今後の活動にご期待ください

傍聴された方々からの応援メッセージ

地域に魅力があり、アイデアも多数生まれている。実現に向け熱意を持って動ける人もいるとも思われる。阪南市盛り上がっていきそうで興味深い。



この回だけではもったいない！
つづけていこうよ、こんな話ができる場！
いい出っぺ、誰がする？



今回の話し合いが単発で終わらず、学生も交えたプラットフォームとして、継続して活動していけたらと思いました。



今回ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。
市では、皆さまのご意見、想いをもとに、次の共創の場づくりを検討中です！